

環境と経済の好循環ビジョン 参考資料

環境と経済の好循環ビジョン要旨	1
環境と経済の好循環専門委員会の審議経過	3
環境と経済の好循環ビジョンにおける目標一覧	5
環境と経済の好循環専門委員会委員名簿	6
環境と経済の好循環ビジョン概要	7

環境と経済の好循環ビジョン

～健やかで美しく豊かな環境先進国へ向けて～（要旨）

2025年を一つの到達点として、環境を良くすることが経済を発展させ、経済の活性化が環境を改善するという「環境と経済の好循環」を実現することにより、「健やかで美しく豊かな環境先進国」を目指すビジョンです。

1. 「環境と経済の好循環」を実現する基盤は、「環境の価値を積極的に評価する市場」です。このような市場をつくるのは、以下のような人々です。

- (1) 環境を大切に思う価値観を持ち、環境に良いかどうかを見極めた上で商品・サービスを購入する消費者。
- (2) 環境に配慮する事業者に資金を提供する投資家。
- (3) 環境に良い商品・サービスを市場に出し、事業からの環境負荷の排出削減に努める事業者。環境技術を研究し、人材を送り出す教育機関。
- (4) コミュニティのつなぎ手を担うとともに、住民や事業者と行政をもつなぐNPO等の民間団体。すべての施策に環境の視点を組み込み、住民や事業者をバックアップする行政。

環境情報の充実や、好循環を呼び起こす人づくりは、すべてに共通する課題です。

そして、それぞれが問題意識を共有し、環境に良いことに向けて協力しあうパートナーシップ社会が構築されることによって、環境と経済の好循環が生み出されます。

2. 環境と経済の好循環に向けた歩みは、既に始まりつつあります。

- (1) 暮らしを彩る環境のわざ：先進的な環境技術や環境に配慮するための方法や仕組みが、日本で次々に生まれ、消費者の支持を得始めています。
- (2) 「もったいない」が生み出す資源：ごみの減量、再使用、再生利用をすすめる取組があちこちで始まっています。

(3) 自然がはぐくむ心と力：自然とのふれあいは、私たちの心身を健やかにし、人々が環境や自然に関心を持つきっかけともなります。自然の力で化石燃料などを代替することは、世界が限られた資源を使いながら平和に暮らす上で必須です。

3. 2025年の日本の将来像として、理想の姿を描きます。

(1) 日本の経済社会

- ① 環境志向の消費と環境を良くする技術力が、多くの雇用機会をもたらし、資源が循環しエネルギー効率の高い循環型社会を構築しています。また、環境負荷を減らすサービス産業が発展しています。
- ② 燃料電池車などが普及し、安心して利用しやすく環境への負荷が少ない交通システムが整備されています。

(2) 地域とライフスタイル

- ① 自然の恵みが人を呼ぶ里：休日を自然豊かな里で過ごす人が増え、そのような地域に雇用が生まれるとともに、人々の環境保全意識がさらに高まっています。
- ② ものづくりのわざが循環をつくる街：環境配慮型製品の生産やリサイクル等が雇用を生み出しています。そのような街の住民の環境意識は高く、事業者などと連携して資源の再使用や循環を進めています。
- ③ 環境の心で生まれ変わる都会：日本の大都市は、最先端の環境技術を生み出す市場として世界からも注目されています。都市にも緑が増えて環境が良くなり、環境保全活動を通じた住民の交流も活発化しています。

(3) 世界と日本

日本の環境技術と環境にやさしいライフスタイルが世界に広まることで、世界の環境保全に貢献することが望まれます。

4. このような理想の社会を実現するため、次期環境基本計画に具体的な施策を盛り込み、日本全体で様々な動きを活発化させて世界に広げることを期待します。

環境と経済の好循環専門委員会の審議経過

平成15年

第1回委員会 11月4日

事務局より委員会設置の経緯・論点等について説明後、自由討議

第2回委員会 11月20日

『くらしを彩る環境のわざ』をテーマに委員等からの意見発表後、自由討議

(発表者)

園田 信雄	松下電器産業株式会社環境本部長
筒見 憲三	株式会社ファーストエスコ代表取締役社長
辰巳 菊子	社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会理事
伊藤 哲志	トヨタ自動車株式会社環境部渉外グループ長担当課長
関 正雄	株式会社損害保険ジャパン社会・環境室長

第3回委員会 12月19日

『自然がはぐくむところとちから』をテーマに委員等からの意見発表後、自由討議

(発表者)

辻 晴雄	シャープ株式会社相談役
養老 孟司	北里大学大学院医療系研究科教授
山本加津子	株式会社主婦の友社「ゆうゆう」編集長
小林 英俊	財団法人日本交通公社理事

平成16年

第4回委員会 1月16日

『「もったいない」が生み出す資源』をテーマに委員等からの意見発表後、自由討議

(発表者)

小倉 康嗣	JFEホールディングス株式会社 環境ソリューションセンター企画部長
黒須 隆一	八王子市長・全国市長会廃棄物対策特別委員会副委員長

崎田 裕子 NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長
NPO法人新宿環境活動ネット代表理事
ジャーナリスト・環境カウンセラー
長島 徳明 帝人株式会社代表取締役副社長
深尾 典男 株式会社日経BP開発室部長

第5回委員会 2月12日

委員会報告骨子案の審議

第6回委員会 3月18日

委員会報告案の審議

パブリックコメントの実施 3月19日～4月5日

第7回委員会 4月16日

委員会報告の決定

(注) 発表者の役職名は、意見発表時点のもの。

環境と経済の好循環ビジョンにおける目標一覧

【くらしを彩る環境のわざ】

① 温室効果ガスの排出削減

1990年比で2008年から2012年の温室効果ガスの排出量を6%削減するとともに、温室効果ガスの排出削減が組み込まれた社会を構築し、長期的・継続的な排出削減を目指す。

② グリーンコンシューマーの増加

「物・サービスを買うときは環境への影響を考慮してから選択している」人の割合が2025年度に80%以上になることを目指す。

【「もったいない」が生み出す資源】

③ 資源生産性の向上

循環型社会形成推進基本計画に基づき、資源生産性（GDP/天然資源等投入量）を2010年度に約39万円/トン（2000年度比で概ね4割向上）まで向上させる。

④ 環境保全活動への積極的参加

「過去1年間に、地域やNPO等でごみの削減やその他の環境保全に参加したことがある」人の割合が2025年度に50%以上になることを目指す。

【自然がはぐくむ心と力】

⑤ 自然とのふれあいを求める人の増加

「年に10日以上を自然の中で過ごす」人の割合が2025年度には50%以上になることを目指す。

⑥ 自然エネルギー等の普及

自然エネルギー等の新エネルギー技術が日本から世界に広まり、大幅に導入されることを目指す。

【2025年の経済社会】

⑦ 環境誘発型ビジネスの成長

通常と比較してより環境に配慮した製品や事業形態（環境誘発型ビジネス）の市場が日本のみならず外国にも広がり、2025年には、100兆円以上の市場と200万人以上の雇用を生み出していることを目指す。

環境と経済の好循環専門委員会委員名簿

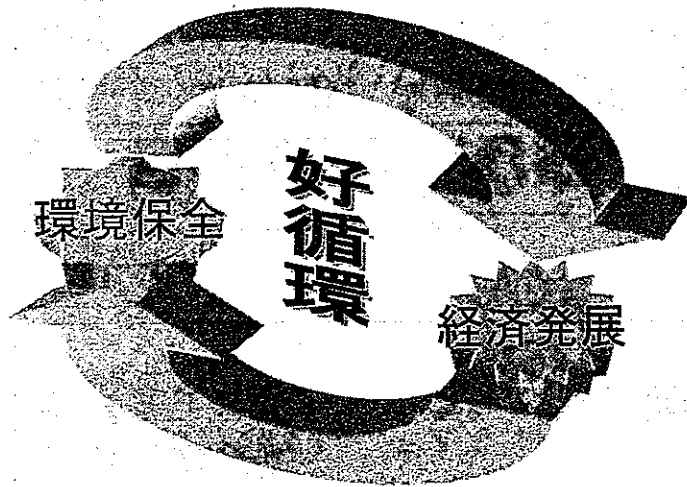
- 浅野直人 福岡大学法学部教授
- 天野明弘 財団法人地球環境戦略研究機関関西研究センター所長
- 植田和弘 京都大学大学院経済学研究科教授
- 小倉康嗣 JFEホールディングス株式会社理事
環境ソリューションセンター企画部長
- 栗原孝 (注1) 大牟田市市長
全国市長会廃棄物対策特別委員会委員長
- 黒須隆一 (注2) 八王子市市長
全国市長会廃棄物対策特別委員会副委員長
- 神津カンナ 作家
- 崎田裕子 NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長
NPO法人新宿環境活動ネット代表理事
ジャーナリスト・環境カウンセラー
- 笹之内雅幸 トヨタ自動車株式会社環境部渉外グループ担当部長
- 関正雄 株式会社損害保険ジャパンCSR・環境推進室長
- 園田信雄 松下電器産業株式会社環境本部長
- 辰巳菊子 社団法人日本消費生活アドバイザー・
コンサルタント協会理事
- 辻晴雄 シャープ株式会社相談役
- 筒見憲三 株式会社ファーストエスコ代表取締役社長
- 深尾典男 株式会社日経BP開発室部長
前「日経エコロジー」編集長
- 安井至 国際連合大学副学長
- ◎安原正 財団法人環境情報普及センター顧問
- 山本加津子 株式会社主婦の友社「ゆうゆう」編集長
- 養老孟司 北里大学大学院医療系研究科教授
- 和気洋子 慶応義塾大学商学部教授

(敬称略・50音順、◎は委員長、○は委員長代理)

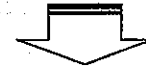
(注1) 第2回委員会の後委員辞任

(注2) 第3回委員会より委員就任

～環境と経済の好循環ビジョン～



環境を良くすることが経済を発展させ、
経済の活性化が環境を改善する社会



健やかで美しく豊かな
環境先進国

好循環への基盤<環境の価値を積極的に評価する市場>

好循環をつくる人々

- 価値観と需要をつくる消費者
- 資金をつくる投資家
- 商品・サービス・人をつくる
事業者・教育機関
- コミュニティをつくる
行政・民間団体

好循環の実現に向けた課題

- 市場が環境配慮に向かうための
技術開発、インセンティブ等
- 好循環を呼び起こす環境情報の充実
- 好循環を呼び起こす人づくり

今から始められる好循環への歩み ～今後の施策の方向性～

くらしを彩る環境のわざ

グリーン消費・投資の増加
→事業者の一層の技術革新
革新的技術の開発、基盤整備



CO₂排出量：京都議定書の削減約束を達成
グリーンコンシューマーの割合
(2002年 31%→2025年 80%以上)

「もったいない」が生み出す資源

ごみの発生抑制
資源化の技術
循環を支えるパートナーシップ社会の形成



資源生産性 (GDP/天然資源等投入量)
(2010年度 約39万円/トン)
環境保全活動に参加する人の割合
(2025年 50%以上)

自然がはぐくむ心と力

自然とのふれあいや健康の保持への関心の高まり
ガイドの育成などによるエコツーリズムの発展
太陽光発電や風力発電の増加



年に10日以上を自然の中で過ごす人の割合
(2025年 50%以上)
自然エネルギー等の新エネルギー技術が日本から
世界へ普及

2025年の将来像

日本の経済社会

- 環境に強い関心を持つ消費者と技術力が生み出す所得と雇用
- 資源が循環しエネルギー効率の高い社会
- サービス産業と環境
- 人と環境にやさしい交通
- 環境誘発型ビジネス

100兆円以上の市場規模
200万人以上の雇用創出

自然の恵みが人を呼ぶ里

- エコツーリズムの発展や地域の環境イメージによる農産品や地場製品の売上げ増により、雇用が増加
- 身近な自然環境に加え地球環境の保全にも熱心



52才のKさん
(今31才)

民宿と農業をしていますが。お客の送迎は低公害車、料理は家で作った有機野菜、エネルギーはバイオマスを利用しています。息子が地元に戻ってきてエコツアーのガイドを始めました。

ものづくりのわざが循環をつくる街

- 工業都市は環境配慮型製品の生産やリサイクル等で地域の雇用を支える
- グリーン購入やごみの資源化に熱心に取り組む



35才のSさん
(今14才)

環境配慮の経営で評価されている会社でエンジニアとして働いています。家では、子供の成長にあわせて家具や省エネ家電をレンタルしています。休暇は家族全員で島で過ごします。

環境の心で生まれ変わる都会

- 最先端の環境技術を生み出す市場として世界のトレンドを先取り
- 建物は太陽光発電を備え、街路樹などの緑地も増加



77才のYさん
(今56才)

退職金の一部で我が家をエコハウスに改築しました。貯えの一部は環境にやさしい企業の株や債券で運用しています。普段は自然再生やゴミ問題のNPOで活動しています。

環境と経済の好循環の国際的な展開

2025年の世界の姿

- 日本の環境技術が世界の環境保全に貢献
- 日本のライフスタイルがアジアの消費者にも影響
- 世界の環境効率性・資源生産性が向上

途上国を旅行して、環境を良くする日本の技術が生きているのを目にしました。環境で豊かになることを目指し、技術を磨き人を育ててきた日本に生まれたことを誇りに思います。



21才のTさん（今年生まれ）

2025年の理想の姿を実現するために

次期環境基本計画の策定

2025年の理想の姿と現実を埋めるために、政府が一体となって、具体的な施策を盛り込む